

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フラワーパークなかもず		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		2025年 4月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2025年 8月 1日		2025年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども同士の関わりが活発で、自然と子どもたち同士で誘い合うなどの交流がある。	・大人が遊びの輪に様々な子どもを誘うことで、少しずつ子ども同士でも誘い合う関わりができています。普段関わりの少ない子ども同士でも、支援員が間に入り大人数で遊べるレクリエーションやコミュニケーション支援を行っている。 ・その子に応じたわかりやすい言葉を具体的に伝えてコミュニケーションを促す、トラブルが起きる前に介入して関係を円滑に保つといった工夫をしている。	・スタッフへの遊びの誘いが多い子を他の子どもたちの遊びの輪に誘い、コミュニケーションの機会を増やす。 ・他の児童との関わりが苦手な子、言葉でのコミュニケーションが難しい子どもでも他の子と遊べるよう、1対1の遊びの中に少しずつ他の子と一緒に遊ぶ場面を作る、声のかけ方やお気に入りの遊びを他の子に伝える等により、一緒に遊ぶ場面を作っていく。
2	・広い空間を活かして動きのある活動をしたり、ゆっくり過ごす時間があったりと、活動のバランスを意識して行っている。	・ダンスや野球など動きのある活動、本の読み聞かせやカードゲーム等座って取り組む活動など、様々な活動を通してみんなで同じことをして楽しむ機会を作っている。 ・立地や施設の特性を活かしたレクリエーションや外出イベントを企画し、子どもたちの興味に応じた活動を行っている。 ・イベントを好まない子どもへの配慮も行い、イベント日と自由に過ごす日のバランスを考えて活動を計画している。	・ボール遊びが好きな子どもが多いため、公園や施設を活用して思い切り体を動かせる機会を作る。 ・調理や制作などのイベントでは、難易度や工程を工夫し、様々な子どもが挑戦できるようにする。 ・イベントが少ない月でも、季節の要素を取り入れるなどして、楽しみが継続するよう工夫する。
3	専門的な資格や多様なスキルを持つスタッフが多く、幅広い関わりが可能である。	・同じ児童に対しても様々な視点で関わり、声かけを行っている。 ・多様な支援員の意見を取り入れ、子どもへの対応方法の幅を広げている。 ・イベント企画などでは、担当以外の職員の意見も取り入れ、企画内容の質を高めている。	・子どもたちの興味に応じて遊びを柔軟に取り入れ、遊びが固定化しないようにする。 ・良い関わり方や声かけを他のスタッフと共有し、子どもとの関係性を踏まえて実践していく。 ・支援員間で困りごとや対応方法を共有し、支援の幅が広がるような環境を整える。 ・研修などを通じて、支援スキルの上昇を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・片付け、食事、学習の時など、ちょっとした場面で適切な声かけや支援ができていないことがある。また子どもによっては、対応できるスタッフが限られている。 ・子ども状況によっては、対応方法に工夫を重ねていてもなかなか功を奏さないことがある。	・支援員の出勤日数の違いで子どもとの関係性を築くのに時間がかかる場合があることや対応方法の共有不足等により、子どもに対して声のかけ方や誘導に工夫が必要な場面で適切な対応が難しいことがある。 ・譲れないこだわりがある子、感情が爆発しやすい子等があり、そうな背景を捉え切れておらず、場当たりの対応になっている。	・声かけに工夫が必要な児童にはまずは対応方法を分かっている支援員が対応することで、見本を示し、誰でも同じような支援ができるようにしていく。 ・支援に迷う場面では支援員同士が積極的に質問・相談し、対応方法を共有していく。 ・子ども同士がプラスの関わりを持てるよう工夫し、こだわりによる調子の崩れ等を減らしていく。また調子を崩した子がいる際にも、他の子どもが安心して過ごせるよう声かけや支援員の立ち位置を工夫する。
2	・勤務時間や日数等の兼ね合いで、職員間での情報共有の難しさがある。	・出勤日数や勤務時間、勤務形態の違いにより、情報共有の時間が十分にとれていないことがある。	・支援員全員で行う取り組みや情報を積極的に共有し、朝礼のアーカイブ化などで情報共有できない要素を減らす。 ・会議や育成事業の場を活用し、子どもの支援に関する困りごとを共有できる場を増やす。
3	・土曜日の外出のイベントを増やしていきたいが、なかなか増やすことができていない。	・土曜日に確実に入れる運転できるスタッフがいない。 ・電車での移動も可能だが、スタッフも子どもも徒歩での移動に慣れていないため、移動に非常に時間がかかる。	・外出のイベントを入れたい時は、なるべく早く企画しておき、運転できるスタッフに声をかけるようにしておく。 ・近くの公園や、施設などに行くイベントを増やすなどして、スタッフも子どもも車を使わない外出や移動に慣れる

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 フラワーパークなかもず

公表日 2025年10月31日

利用児童数 28

回収数 21

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	4	0	0		動線を意識して物を配置し、安全な活動環境を整備しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1	0	1		引き続き、利用人数等を考慮して、適切な人員を配置します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1	0	2	集中が続かないため、ついたてなど本人が集中しやすい環境設定がされるとなが良いと思う。	今後も構造化をするなど、子どもの得意不得意に応じた配慮を行います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19	2	0	0		日々の清掃や定期的な大掃除、車の消毒などを行い、清潔を保ちます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	1	0	0	宿題をする際、おはじきなど具体物を使うなど工夫してくれている。	今後も継続して特性に応じた支援を行います。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	0	0	0	良く観察してそれをもとにアセスメント、プランを作成しており、個性がある。	こどもと保護者のニーズ等を聞き、計画を立案します。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	1	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1	0	1		子どもたちが主体的に企画したイベントを行うなど、子どもたちのニーズも踏まえた活動を行います。
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	4	4	7		公園遊びを通して地域の子どもたちと交流する機会を今後も継続して増やしていきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	3	0	3		保護者も参加できる研修等があれば情報提供します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	20	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	0	1	0		今後も子どもを理解し寄り添いながら、保護者と連携し継続的にコミュニケーションを図っていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	7	6	2	6		引き続き参観の機会等を活用し、保護者やきょうだいが参加できる交流の場を設けます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2	0	1		相談があればすぐに共有し、面談を実施するなどの対応をします。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	2	0	0	不安に思ったことはすぐ対応してくれる。	日々の様子や変化をしっかり伝え、必要に応じて迅速に共有します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	5	1	1		SNSやまーふら通信等を活用し、日々の様子をわかりやすく発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	0	0	1		警報発令時の対応や避難先等については周知しています。また外部講師を招いて防犯訓練等を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	0	0	1		地震・火災・大雨など、テーマを毎月変えながら避難訓練を行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	21	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	1	何かあればすぐに説明がある。	今後も何かあった際は、必ず申し送りやLINE等で詳細な情報を保護者に共有します。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20	1	0	0		子どもとコミュニケーションを欠かさず、安心して過ごせるよう、引き続き、環境づくりに努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	1	0	0	子どもが楽しみに通っていて、とても安心して預けられる。学校に行くモチベーションになっている。	子どもの意見をより取り入れ、子どもたちが楽しく過ごせるよう、引き続き支援します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	0	1	1		意見や要望には可能な限り対応し、理由を丁寧に説明しながら安心できる体制を整えます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	フラワーパークなかもず					公表日	2025年 10月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	3	子どもの状況に応じてスタッフの配置数や組み合わせを工夫している。また勤務時間を調整し、支援スタッフの少ない時間を減らすよう努めている。	必要な人員配置を行い工夫して対応している。しかし、対応に苦慮する子どもに意識が向きやすい点は課題である。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	マットの色を分けて活動エリアを分かりやすくし、死角がある部分も職員間で連携しながら子どもの安全に配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	子どもたちの過ごすエリアは毎日掃除を行い、過ごし方に応じて設備の配置や変更も適宜行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	相談室を活用し、クールダウンや1人で落ち着きたい子が自分で過ごせるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	2		出勤日数によっては参加できない支援員がいるため、こどもの様子を共有できる話合いの場を増やしていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	気になる点はスタッフ間で共有し、改善案の検討に活かしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6		外部評価は行っていないが、育成事業や他事業所の意見を取り入れ、改善に活かすよう努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	全スタッフに研修案内を共有し、希望者は参加できる体制を整えている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	モニタリングや支援会議等の機会も使い、支援目標の設定等を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	3	行動観察を中心にアセスメントを行い、変化や成長をスタッフ間で共有している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	必要な項目すべての支援を行えるよう、支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	4		勤務時間の都合で一部スタッフで行うことが多いが、可能な範囲で様々なスタッフの意見を聴取し、支援の向上に努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	毎月開催のイベントと季節に合わせたイベントを行ないメリハリをつけている。長期休暇時は開催曜日を工夫している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	朝礼や様々なツールで情報を共有し、参加できないスタッフにも内容を伝えている。	重要な情報は共有されているが、子どもの様子を見て自然と支援方法が変わる場合は共有が不十分なことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	5	気になることは話し合うようにしている。	勤務時間の違いで全員の振り返りは難しいが、可能な範囲で行い、必要事項は朝礼等で共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	日誌作成や、必要に応じて特定の内容における記録を継続的にを行い、支援改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	絵カード等で具体的な選択肢を示す、見通しを伝える等、その子に応じた工夫をし、自己決定を促している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	4	学校の先生から子どもの対応での困りごとを相談された場合は、可能な範囲で答えてその旨を事業所でも共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	保護者から家や学校の様子を聞いて支援に活用している。	今後必要があれば、連携をとっていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	9		該当児童がいないが、今後該当の子がいれば連携を図りたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	4	育成事業という形で外部から人呼び、支援の助言や評価をもらっている。研修にも必要に応じて参加している。	研修の機会はあるが、勤務時間の都合で参加できないスタッフが多い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	外遊びの時、公園にいる児童と一緒に遊ぶ等で交流がある。	イベントを通しての多事業所との交流や、公園で地域の学校の子と遊ぶ機会を引き続き作っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	8	放課後連絡会に参加し、地域間連携や地域課題の共有を図っている	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	保護者に直接伝える、LINEで報告を行うなど、何かあった場合はその日のうちに情報を伝えられるよう心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	6	プログラム実施等はしていないが、事業所での工夫を伝える等、各家庭でも取り組めるように支援している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	子どもへの対応などで保護者から相談があった場合には、事業所で行っている支援方法などを共有している	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	8	参観などで保護者ときょうだいが来ることのできる機会を作り、交流のきっかけ作りをしている。	保護者やきょうだいのニーズを踏まえ、交流会等の実施方法について模索していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	買い物等の機会を通して交流機会を設けている。	行事に地域住民を招待する等は難しいが、様々な機会を通して交流が図れるようにする。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	訓練の実施に加え、非常時用の飲食物の備え、緊急連絡先リストの作成等の対策を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	1		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	配慮事項があるかを確認し、全て一覧にまとめている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	災害時の避難場所や緊急連絡先の周知を行い、毎月こどもたちと避難訓練を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハットにすぐに記録をつけて、改善策と共にスタッフに共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	毎年必ず虐待研修や身体拘束についての研修を行い、事例検討をしながら虐待防止について意見を交わしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	1	基本的には身体拘束が必要な子どもはいない。調子を崩すなどやむを得ず拘束した場合には、経緯も含めて保護者に説明している。		